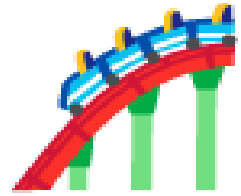




じゃあすき あけぼの



福山市立曙小学校 校長だより 2026年(令和8年)5月21日

学びを進めるために

以前、卒業を控えた6年生のこどもたちに尋ねたことがありました。

「小学校6年間、いろいろな教科を勉強してきました。例えば、国語、算数…。そうした教科が何を学ぶものだったのかについて考えてほしいと思います。」と投げかけ、できるだけみんなが納得できるような表現にまとめてほしいと付け加えていました。当時のこどもたちが考え、まとめた一部です。

国語 …………… ことばで表現された内容から、事実を読み取り、ひとの気持ちや考え、情景などを理解したり、自分の気持ちや考えを分かりやすく伝えたりするため
算数 …………… いろいろな「りょう」を正確に知るため 比べたり、変化に気付いたりするため
理科 …………… 現象(「なぜ」など)の原因と結果を解明し、同じ現象を再現し、操れるようにするため
社会 …………… みんなが幸せにくらせる世の中をつくるため みんなのくらしを豊かにしていくため
保健体育 …… みんなの健康や体力を増進していくため
道徳 …………… 出会う場面で、よりよい判断と行動ができるようにするため

読み返してみると、かなり「教科の本質」についていると思います。

現在、わたしたちはいろいろな教科の学力調査を実施していますが、その結果分析を通して、分かってきていることがあります。それは、

文章(教科書や問題文など)を読んでも(音読・黙読)、読めて(内容を理解して)いない。

ということです。

各教科の「学び」は、言葉で整理された内容について、言葉を介して問われたり、伝えられたりして、言葉を使って理解し、考え、表現していくことで進められます。

あらためて強く感じていることは、

「言葉」と「数」が、全ての教科等における学習の基盤となる。

ということです。

そもそもわたしたちが日常会話で使っている言葉は限られています。

その状況を考えるとき、「語彙の量と質を豊かにしていくこと」が重要だと思います。

そのためには、言語環境がポイントとなり、学校では、「学び」を進める上で大きな役割を担うわたしたちの「言葉への感性」が問われると思います。

「言葉への感性」を高める

Let's be on the same page. We're best friends!

～ 心を合わそうよ。なかよしなんだから ～